



YMCA NEWS

金沢青年

HP版 No.5 (2005年9月号)

発行所: 金沢キリスト教青年会 本部 〒920-0998 金沢市里見町 44-1 里見タウンハイツ 201
TEL/FAX (076) 221-5398 <http://www.ys-chubu.jp/kanazawaymca/>

タネまきの季節

理事長 井上 良彦

台風シーズンも過ぎて、秋の青空がひろがり、気持ちのよい季節となりつつあります。裏庭の畑に、大根と法蓮草の種をぜひ播かなければ、と思っているのですが、法蓮草は 25℃以上になると発芽してもうまくいかず、大根はまわりの雑草の中で元気な虫たちにやられてしまいそうで、まだスタートしていません。むかし中学生の頃、正岡子規の句を教科書で習いました。

鶏頭の 十四五本も ありぬべし。

病床六尺に寝たきりの子規の眼にうつった庭は、雑草が繁っていたかどうかわかりませんが、多分あまり手入れはされていなかったでしょう。わが家の庭から、子規のことを連想してしまいました。

ところで、わたしたちの金沢 YMCA も、また再びタネ播きをするべき時を迎えているように思います。

規約(法人寄附行為)の第3条に、次のようにあります。

「この法人は、キリスト教精神にもとづき地域における青少年たちの心身の健全な成長をはかるとともに、奉仕の精神を養い、もって民主的社会の発展と世界の平和に寄与することを目的とする。」そして、つぎの第4条には、「この目的を達成するために次の事業を行う」として、10項目の具体的な事業が掲げられています。

これを見ると、YMCA は地域活動としてのぞましいことは何でも出来る、と感じました。しかしながら、メンバー・時間・エネルギー・資金資材——等には限りがありますから、何にでも手を出していい、というわけにまいません。よく整えて、集中し選択することが必要であります。

雑草のはびこった庭のままではなく、よいタネが播けるように、と思っています。



YMCAと私

金沢YMCA常務委員
金沢ワイズメンズクラブ 山谷 澄



YMCAとの関わりをお話したい。

現在信用金庫の支店であるが、昔はメソジスト派の野町教会があり、そのときは無牧であった。初めてこの建物に入り、吹き抜けの天井と回廊を見て、これがキリスト教会か、と思った。二階の電車通りに面した事務所で、ESSがあるというので顔を出した。それがYMCAとの関わりである。

アイ ケイム バイ トラムカーと覚束なくしゃべった。連合軍総司令官の名前を発音させられた。ダグラス マッカーサーというのではなく、ダーグラス マックアーサーと何度も練習させられた。特に th は舌を噛んで発音したことを思い出す。

他校の諸君とも交流をもった。爾来五十数年、七十歳を幾つか過ぎたが、今でもYMCAの現役の会員であり、それが名誉とも思っているのである。

朗読劇『この子たちの夏』に思う

金沢YMCA理事

金沢ワイズメンズクラブ 数澤 輝夫

「助けてェ！……助けてェ！……」私はもう、家の下敷きになって、身動きひとつできなかった。二人の姉のすがたが、外にみえた！うれしかった。やがて大姉ちゃんが、水兵さんを 4、5 人つれて、走ってきた。その人々の力で、私は助け出された。これは、朗読シーンの一部である。

『この子たちの夏』は、6 人の女優による朗読劇で、原爆投下後の悲惨状況や苦しみ、希望を綴った手記や日記などが、次々に朗読される。被爆者の思いに耳を傾ける約 650 人の胸にせまるものがあり、会場のあちこちからはすすり泣きも聞こえ、目頭をハンカチで押さえる姿も見受けられたのである。

今年は、ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下から 60 年目の夏すなわち日本が平和の歩みを踏み出して 60 年になる。世界唯一の核被爆国である日本人が無関心であってはならない。核の問題、平和の問題を積極的に考え、一人ひとりが世界平和の実現を目指すために「ノーモアヒロシマ・ナガサキ」を合言葉に努力が必要である。今日から明日へと平和の構築に希望を持って歩いて行きたいと願うものである。

『原爆はマンハッタン計画で 20 億ドルの費用と、延べ 12 万人以上の人手を投入し開発された。広島に投下されたのは重さ約 4 トン、長さ 3 メートル。直径 0.7 メートルの細長い形から「リトル・ボーイ」の通称で呼ばれた。強大なエネルギーは地表を 3000～4000 度に熱し、放射能を含む「黒い雨」を降らせた。広島市を中心に当時住んでいた 32 万人のうち 14 万人が死亡。55,000 戸が全焼した。』

みどりっ子キャンプ

in 土子原こども野外広場

8 月 25 日・26 日、金沢YMCAが再始動して初めての泊まりのキャンプを行いました。台風接近ということで天気心配されましたが、みんなの元気が雲を蹴散らしたのか、1 日目は暑すぎるぐらいのとっても良い天気となりました。



1 日目はテント張り、ネイチャーゲーム、竹取り、カレーライス作り、キャンプファイヤーというプログラムでした。2 日目の流しそうめんを使う竹を近くの竹林まで取りに行きました。自分たちでノコギリを持ち、上を見上げて先が見えないぐらいの大きな竹を 3 本取りました。リーダーも弱音を吐いてしまうぐらい重たかったのですが、みんな、文句も言わず一生懸命運びました。夕食はカレーライスを作りました。自分たちで作ったカレーは絶品で、勢いよく口に運んでいました。暗くなるとキャンプファイヤーです。火の付いたファイヤーを目の前に、みんなの目も輝いていました。ファイヤーを囲み、約 40 分間ゲームを楽しみました。テント泊は初めてでなかなか寝付けなかった子もいましたが、虫の声しか聞こえない普段とは全く違う夜を満喫しました。

蝉の声で目が覚めた 2 日目は、流しそうめん、竹細工というプログラムでした。竹から切り取った器と竹の箸を手にとり、流れてくるそうめんをみんな上手につかんでいました。そうめんを逃すまいと急いで食べていたため、早いうちにお腹いっぱいになっている子もいました。竹細工では、ノコギリや小刀を使い、竹ぽっくりや竹とんぼ、弓矢、けん玉など、みんなそれぞれ自分の作りたいものを作っていました。中には竹刀を作っている子もいました。

家族と離れて過ごした 2 日間。夏の良い思い出となったことでしょうか。作った竹細工をおみやげに、みんなにこにこ顔でお母さんの元へ帰って行きました。

(O.Y.記)

【ボランティア募集】

金沢YMCAでは小学生を対象に野外活動を行っています。そこで、活動中子供たちをリードしてくれる学生ボランティアを募集しています。子供たちと一緒に楽しいひとときを過ごしませんか。

もみじっ子キャンプ 日時:2005 年 10 月 15 日(土)

場所:五郎島、栗崎やすらぎの林

内容:芋掘り、野外料理、オリエンテーリングなど

募集人数:3 名

ゆきん子キャンプ 日時:2006 年 1 月 28 日(土)

活動場所:未定

活動内容:スキー

募集人数:3 名

連絡先:金沢YMCA事務所 小野

TEL/FAX076-221-5398(木曜日 10:30~15:00)